

2024.06.20. 木曜礼拝「反キリストについての預言」

ダニエル7章

JD ファラグ牧師

一緒に祈りましょう。主よ、私たちがあなたに歌を捧げられるこの時間を感謝します。この時間を祝福してください。凄い！ なんという章でしょうか。「ダニエル書」7章です。主よ、今夜、JD 牧師が御言葉を伝える時、私たちが理解できるようにしてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。

こんばんは。今夜はいかがですか？ 祝福されてます？ 説得力がありませんけど、どうぞご着席ください。それについて、何とかできるかどうか考えてみましょう。オンラインでご覧の方、参加くださり大変嬉しいです。ご覧になって、ここにいる人たちと同様、あなたが祝福されますように。始める前に、来週の木曜日は、「ダニエル書」8章の学びではないのお知らせしておきます。もちろん今夜は、7章を学びますが、来週は、クリス・デュビューク医師との対談をする予定だからです。私たちはこのことについて、かなり長い間話し合い、祈ってきました。

選んだタイトルは：『医師からの厳しい真実』というのも、対談する内容は、医学博士からの真実だから。それで注意点は、特にオンラインの方、聖書の学びは通常、7時30分からライブ配信しますが、来週の木曜日は、ハワイ時間の午後7時から7時30分くらいまでの間に始めます。私たちは、その内容にいきなりぶつかっていくのではなく、ただゆっくりと踏み入れる感じになります。そこで、ユーチューブとフェイスブックでのライブ配信を終了します。話さねばならないことがありますから。それらは、検閲に敏感なので、(Censorship sensitive) それを3回早口で言ってみてね。それを7時30分から8時30分ぐらいに話します。だから、来週の木曜日には1時間半、一緒に過ごすことになります。是非いらして下さい。私たちは人が言うところの本音で話します。何が起きているのか、何が起こったのか、何が起きていくのか、また、それがどうなっていくのか、もしも主が遅れられるなら、この先どうなるのかを。多くの人がご存知の通り、クリス医師は奥様と地元でこの教会の一員です。私はご夫婦に会う機会に恵まれました。もう3、4年前になるね。本当に？ そんなに？ 楽しんでいると、時間はあっという間に過ぎますね。とにかく、彼らはとてつもなく祝福の存在なのです。クリス医師とは、彼がここに通う間に、時を経て知り合いましたが、彼は豊富な情報をお持ちです。これはとても役に立つと思います。特に、こんにち起きていることを踏まえながら、自分たちの進むべき道を舵取りするには。桁外れで、狂っていますから。ですから、本音の話と、厳しい真実ですが、クリス博士と私とで対談をします。カレンダーに印をして、是非ご参加ください。参加されるのを願います。そうすれば、きっと祝福されるでしょう。また、オンラインの皆さん、そのことをメモしておかれようように。ソーシャル・メディア・プラットフォームでスケジュールを組みますが、聖書預言・アップデート同様、ウェブサイトで全編を見ることをお勧めします。

それでは、「ダニエル書」7章の御言葉に入りましょう。わお～！ いえ、わお～！ 凄いです。この章は、旧約聖書全体の中で、聖書預言に関する最も包括的な章の一つと言われています。ここ7章から、私たちは聖書の歴史から聖書預言へと向きを変えます。ダニエル書は好都合なことに、12章が2つの部分に分かれています。最初の6章は、ネブカドネツアル王とそれに続くベルシャツアル王の下、バビロンに捕囚されたダニエルの歴史的な記録です。先週学んだように、先週でしたっけ？ ちょっと誰か先週と言って。6章では、2章でネブカドネツアルが見た夢を解釈するために、ダニエルに与えられた幻での預言通り、メド・ペルシャ帝国の王下で、バビロニア帝国は滅亡しました。幻は、「バビロニア王国は永遠に続くわけではない。」ネブカドネツアルはやってみました。彼はそれを望み、バビロニア帝国を象徴する頭だけでなく、像の全体を純金で作りました。しかし、その後メド・ペルシャ帝国が支配しました。ダニエルは、先週、ダレイオス王の下にいます。今夜はとても興味深いことを見ます。ベルシャツアルがまだ王であった頃まで補足で遡るからです。彼は先週死んだのに。先週おられた方、ベルシャツアルは、先週の学びの中で死んだのをご存知ですね。そう先週の章で、彼は死にましたね。でも、今日はそれを遡る感じで、これは補足的に、ある種の括弧でくくられた章であるとも言え、時系列ではありません。アラム語で書かれた最後の章でもあります。ここで、多くの詳細により混乱させたくありませんが、これは実は重要で、今夜の2章から7章までの章は、アラム語で書かれているからです。なぜかという、それは異邦人の言葉だったから。8章に入っ

て、書の終わりの12章まではヘブライ語です。なぜか？ イスラエルに関することだから。だから、今夜は非常に重要な章です。その理由はいくつもありますが、特にダニエルの幻に関し、それは、終わりの時までの世界の王国についての「ヨハネの黙示録」と一致します。なぜそれが重要なのか？ 結末を知れば、心が落ち着くからです。ええ、どんどん悪化していきます。言葉にならない恐ろしさです。しかし、神は、夢/ビジョンでダニエルに啓示される。すぐに説明します。今からすぐ初っ端で分かります。神はダニエルに、神がご支配、永遠に統治される終わりの時までを預言的に、未来の全世界を明らかにしようとしておられます。大好きなのは、これはネタバレ。永遠に、いつまでも、ずっと。いや、それは冗長ではありません。こうなるでしょ？「どれくらいの期間？」永遠に。いつまでも、ずっと。いつまでも、いつまでも、いつまでも、いつまでも。そう、それが私を落ち着かせます。落ち着かなきゃ。そう思いませんか？ 私たちが生きているこの世では。聖書のこのような章が書かれたのは、まさに、「事」の裏にある「理由」なのでは？ なぜこのような包括的な預言の章が私たちに記されているのか？ 驚くべき、驚くべき精度、驚くべき正確さで。神がダニエルに啓示しようとしているこの預言的ビジョンは、非常に正確で、特にこの書物について、多くの批評家が徹底的に争ってきました。この言い回し、ある？ ある、そう、よかった！ 完全に仕損なったわけじゃないね。彼らは徹底的に争ってきました。書かれた出来事が起こる前に、これが書かれたとは信じられないと。それほど正確だからです。「ありえない。」「これは後から書かれたものだ。」ただ一つ問題があります。イエスはダニエルを参照され、そのように書かれました。さっき述べたように、アラム語で。だから間違いありません。しかもタイムスタンプ付き。私は聖書の預言的タイムスタンプが大好きです。だから、これから見るように、彼がいつこの幻を見たかが語られます。だから、実現することの正確さに、疑問符はありません。で、大事なのは、これが私がこのタイトルを選んだ理由で、本当の意味での教訓です。理解ください。私が聖書を解説し、章ごと、節ごとに教える時、私がこれを始めたのは、何年前だったか忘れましたが、教訓がなければならなかった。神がこの章から私たちに持ち帰ってほしいものは何か？ だから、昔はただ、「木曜日の夜は、ダニエル書7章です。」イエ〜イ！ 今や、タイトルや表情をつけることで全体の様相が変わります。ですから、この章からの教訓は？この章の焦点は？ この章の主旨は？『反キリストについての預言』です。何が非常に興味深いかと言うと、ダニエルは、彼が2章で解釈したネブカドネツァルの夢に基づく、四つの王国の幻を見せられます。しかし神は、ダニエルにこの幻の中でさらに深く、すべての王国を明らかになさろうとします。ダニエルにこの幻を示す中、神は最終王国の十本の角についてを非常に具体的に語ろうとしておられます。そして、十本の角の中から出てくるこの奇妙な小さな角について。ダニエルが最も好奇心を抱いているのは、第二の王国や第三の王国についてではなく、この第四の王国が彼の関心を引きました。彼はこの小さな角についてもっと知りたがっています。これは明らかに、疑いなく、反キリストについての預言です。その理由を見ていきます。理由がわかります。その疑問は、聖霊によって、この章で、私たちのために答えられるでしょう。

では、祈りましょう。神の御言葉の中で、私たちが共に過ごす時間を祝福くださるよう、神にお願いしましょう。

主よ、本当にありがとうございます。ずっと楽しみにして来ました。やや怖ろしくもある章です。この章は非常にパワフルで、包括的で、多くのことが書かれているからです。しかし、主よ、あなたはこの章で私たちにしてほしいことがあられます。ですから、聖霊によって、何よりもまず私たちの注意を引かれ、一旦引かれたら、私たちの思いが迷わないように、私たちの注意を保ってくださいますか？ 私たちのためにここにあるものを見逃したくないからです。それがこの章がある理由だからです。ここには、私たちの人生に取り入れるべきことがたくさんあります。ストレスが多くても、忙しくても。聖書預言の正確さ、100%の正確さ、そしてそれが私たちにとって何を意味するのか。主よ、それだけでも。聖書預言をありがとうございます。ですから主よ、私たちに語ってください。はい、預言が詰まった章ですけど、個人的適応が非常に多いので、それを強調し、私たちに導いてくださいますか？ イエスの御名によって、アーメン。

それでは、1節から始めましょう。準備はいいですか？

ーダニエル 7：1ー

バビロンの王ベルシャツァルの元年に、

(これが預言のタイムスタンプです。)

ダニエルは寢床で、ある夢と、頭に浮かぶ幻を見た。・・・

(JD：ラップ調) カポノ、それを何かにした？ おお、私がそのことを尋ねるのを知っていたから出て行きました。それは歌です。「寢床で、ある夢と、頭に浮かぶ幻を見た。」夢と幻が何だって♪ ダメ？ 早過ぎるって？ OK。

・・・それからその夢を書き記し、

(事の次第を述べた。) そこで止まります。これが夢と幻の区別です。寝ている時に変な夢を見て、それがすぐリアルで、目が覚めます。ダニエルは夢を見て目を覚まし、それが幻、啓示であることに気がきます。それが彼が忘れないように書き記した理由です。御霊によって導かれました。書き記しただけではないとも教えています。夢を書き記し、ダニエルは重要な事実を語ります。言い換えれば、

「あまりにも沢山なので、私があなた方のためにできることは要約だけです。非常に詳細だったからです。この幻と夢の中で私が見たものの要点だけを伝えます。」幻は必ずしも、実際、黙示録のヨハネのような幻は、目が覚めていて、この啓示、幻を受けます。夢は、幻を受ける時、それは夢の形においてです。眠っている間、頭の中で、ベッドの上で。(JD：韻をふむ) ごめんなさい。もう一回言ってくれますか？ 「頭の中で、ベッドの上で。」OK。まだ2節にいません。2節、

ーダニエル 7：2ー

ダニエルは言った。「私が夜、幻を見ていると、なんと、天の四方の風が大海をかき立てていた。

明らかに、ここに象徴的なものがあります。大海とは地中海のことで、これらの王国が該当すると考えられます。しかし、より広い意味で、より預言的に、大海とは人類のことで、私たちはそれを見ます。3節、

ーダニエル 7：3ー

すると、四頭の大きな獣が海から上がって来た。その四頭はそれぞれ異なっていた。

ーダニエル 7：4ー

第一のものは獅子のようで、・・・

(これに留意ください。

「獅子のような」です。獅子ではありません。「獅子のような」です。) 彼は見た夢や幻で、獣たちがどのようであったかの説明に全力を尽くします。この1つ目は獅子のようで、しかし、

・・・鷲の翼をつけていた。

興味深いです。鷲は空の支配者、獅子は地上のジャングルの支配者です。興味深いのは、これはバビロンについて語っていること。古代イラク、古代バビロンで調査したいのなら、現代のイラクの首都バグダッドから、私の叔父の出身地ですが、50 マイルほど離れたところです。古代バビロンを訪れることができます。自らをネブカドネツアル王の生まれ変わりだと考えたサダム・フセインの再建築物を見るでしょう。事実、彼の再建した古代バビロンのレンガの一部に、レンガの片面にはネブカドネツアルの名を、もう片面にはフセインの名を刻みました。フセインが自己を見る目は、、、大きなポスターがあって、、、言い過ぎなのは承知です。今夜の聖書の学びとはまったく関係ありません。私を知って欲しいのは、バビロンの門には、翼をつけた巨大な獅子がいること。飛べる獅子でした。さて、ダニエルが見た、というものに注目。ダニエルは見ている。彼の目はこれに釘付けです。

・・・見ていると、その翼は抜き取られ、・・・

おお、恐れ多い。これはネブカドネツアルのことです。どうして私たちはわかるのか。ダニエルはこう言うからです。

・・・地から身を起こされて人間のようになり、二本の足で立ち、人間の心が与えられた。

さっと4章に巻き戻します。ネブカドネツアルの証しをみると、天国でネブカドネツアルに会うでしょう。ネブカドネツアルはダニエルの神、イスラエルの神の救いの知識を得ました。王の証しはすべて4章に書かれています。ここに、雄大で力強い翼をつけた誇り高き獅子の王国がありました。ネブカドネツアルは獣として生きた7年間はへりくだりました。それを覚えていますか？　ところで、ちょっと余談です。ネブカドネツアルが7年間、獣のように暮らした時、誰が面倒を見たかご存知ですか？　ダニエルです。ダニエルです。ダニエルがネブカドネツアルの世話をしました。その期間、7年間です。ですから、ネブカドネツアルはダニエルの神の救いの知識を得るようになります。そのことゆえに。そこに教訓があります。

で、これが新しい心を与えられた男。神は彼の心を変えられました。神は彼をへりくだらせ、変えられました。それが第一の獣でした。

ーダニエル 7：5ー

すると見よ、熊に似た別の第二の獣が現れた。・・・

「熊に似た」です。熊ではありません。「熊に似た」です。全く違います。熊について私たちが知っている真実とは何か？　彼らはこんな風、少し動きが鈍いけど、ある熊たちは、、、皆さんのように映画の見過ぎかもしれないけど、ある熊たちはかなり速く走ると思います。いったん熊に捕まったら、おしまいです。ですから、これは熊の強さです。これがこの第二の獣です。これがメド・ペルシャ帝国です。

第一の獣：「鷲の翼をつけた獅子」はバビロンです。

第二の獣：「熊に似た」これに注目ください。

・・・その獣は横向きに寝ていて、・・・

それはペルシャ側です。実際、歴史家はメディアをあまり評価しません。実際、それはメド・ペルシャ帝国です。しかし、ダレイオスはメディアの王として2年だけ生き君臨しました。ですからキュロス王が登場する時、彼が支配君臨するペルシャの王で、ペルシャ人、ペルシャ帝国は熊に似ています。これに注目ください。再度、この幻、彼は描写していて、彼は言います。熊に似た第二の獣は、

・・・その口の牙の間には三本の肋骨があった。・・・

なぜそれを知る必要があるのか？　それは何を意味するのか？　それは、ペルシャが征服した3つの王国バビロン、エジプト、リディアを象徴します。2章のネブカドネツアルの夢、幻を思い出してください。(頭が)金のバビロンは、銀のメド・ペルシャによって引き継がれ、(ダニエル 2:32 参照)

メド・ペルシャは、金より劣り、熊に似ていて、特に翼をつけた獅子より劣っていました。

・・・すると、それに『起き上がって、多くの肉を食らえ』との声がかかった。

ーダニエル 7：6ー

その後、見ていると、なんと、豹のような別の獣が現れた。・・・

豹ではなく、豹のような、です。これは誰か？　ギリシャです。青銅。(ダニエル 2:32 参照) 銀よりも劣り、金に劣る。これが、これがギリシャ帝国、あのアレキサンダー大王です。豹のように。豹の動きの速さはご存知でしょ。エレミヤ書(5：6)に豹のすばやさについての言及があると思いますが、彼らは足が地面につかないほど速く走ります。豹と競争はしたくないですよ。念のために言っておきますけど、それがあなたの教訓かもしれません。豹と競争しようと思うなら、悩むことはありませんよ。その競争は負けますよ。彼らはとても速いから。なぜこの獣は、そうなのか。因みに、彼がすでにメド・ペルシャ帝国によるバビロニア帝国の征服を目撃したのは、そこで生きていたからではない。これはまだ起こっていません。ダニエルはもう、豹のような第三の獣を見て、あれほど速く、あれほど素早く動いたアレキサンダー大王を直接語っています。アレキサンダー大王は29歳までに既知の世界を征服しました。それはあらゆる面で間違っています。29歳？　あなたはまだ若造で、29歳で全世界を制覇した？　歴史家は、彼がいかにして鬱に陥ったかを書いています。もう征服する国家がなくなったから。もうひとつ余談です。前にも述べましたが、再度言

う価値があります。誰かがアレキサンダー大王に見せたのが、ダニエル書7章の預言です。私たちが今夜読んでいるもの。そう、これは彼が生まれる前に記されました。29歳で世界を征服することが。それで（この箇所）ダニエルは、もう年老いた賢者です。しかし言われているのは、誰かがアレキサンダー大王を横に連れて行って見せた。「おい、君、アレキサンダーよ・・・おいとは言わなかったけど、・・・君のことが聖書にあるよ。」「何のことを話しているの?」「いや、君が聖書に載っているんだ。」で、アレキサンダーにこの7章を見せた。「君は豹のように、全世界を征服しているよ。」アレキサンダーはぶっ飛びます。言い方はまずいですが、それで彼は、当時、ギリシャ帝国として、既知の世界を迅速に征服しながらエルサレムを滅ぼさなかった。これは興味深いです。私たちが語られているのは、ダニエルの続き、この豹のような獣は、

・・・その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。そしてそれに主権が与えられた。

どういう意味か？ この正確さを聞いて下さい。おお、私は神の御言葉が大好きです。私は神の御言葉が大好きです。私は神の御言葉が大好きです。アレキサンダー大王が死にます。彼はどうするつもりか？ はい、彼は残した王国を四人の人物に分割します。その名前を知りたいですか？ よかった、ここに書いてあるから。カッサンドロス、リュシマコス、セレウコス、赤ちゃんの名前を探しているなら、これらの名前はお勧めしません。そして、プトレマイオス。彼はエジプトにたどり着きました。これは、まだ起こっていないアレキサンダー大王についての預言です。彼は豹のように素早く征服し、若くして死ぬ。そしてその王国を4人の頭に譲る。これは100%の正確さで真実です。ダニエルにとって、今、この時点で、これは預言です。「ヨハネの黙示録」13章では、同じ4匹の獣が逆の順序で登場します。なぜか？ なぜなら、西暦95年のヨハネにとって、もうそれは預言ではなく、すでに起こったこと、すべて歴史だから。10本の指と、大口を叩く小さな角以外は。先走っていますね。お待ちください。

ーダニエル 7：7ー

その後また夜の幻を見てみると、なんと、第四の獣が現れた・・・

この第四の獣に関する彼の説明の中で、際立って欠けているものに注目してください。彼は何にも例えません。獅子、鷲の翼、豹、熊どころじゃありません。熊、太鼓持ちなど、彼は比較もできません。(JD：韻をふむ) 今のは良かったですね。ダニエルが言えるのは、

・・・それ（第四の獣）は恐ろしくて不気味で、非常に強かった。大きな鉄の牙を持っていて、食らってはかみ砕き、その残りを足で踏みつけていた。これは前に現れたすべての獣と異なり、十本の角を持っていた。

このことは、ヨハネが受けた啓示と再び一致します。8節、ダニエルが何に注目しているか気付いてください。

ーダニエル 7：8ー

私とその角を注意深く見ていると、・・・

訳すと、私の注意を引いた。

・・・なんと、その間から、もう一本の小さな角が出て来て、その角のために、初めの角のうち三本が引き抜かれた。よく見ると、この角には人間の目のような目があり、大言壮語する（冒瀆する）口があった。

それが反キリストです。これが反キリストです。この十本の角、十人の王、十の王国を治める十人の支配者の中から上ってくる。このことについては、聖書預言・アップデートでもずっと話してきましたけど、これ（反キリスト）は人です。そして、この男はただの人だけでなく、大口をたたく人です。ここには、反キリストがどのような人物なのか、詳細があります。彼が何をしようとしているのか、どれほど邪悪になろうとしているのか。彼はサタンそのものに憑依されます。サタンがこの男の中に憑依します。しかし、悲しいことに、一つ見逃されているのは、反キリストの特徴として残念ながら見逃されているのは、彼は、最も自惚れ、大げさで、好戦的で、神を冒瀆するようなことを言う人物になること。それはここで置いておきます。

9節に留意ください。ダニエルの目はこれに釘付けになっています。

ーダニエル 7：9ー

私が見ていると、やがていくつかの御座が備えられ、・・・

言い換えれば、「私はこのことから目が離せない。災いだ。」

・・・やがていくつかの御座が備えられ、(これ↓聞いて下さい。)『年を経た方』が座に着かれた。・・・

そ～です！！『年を経た方』が誰だか知ってます？ 父なる神です。そう、父なる神が座しておられる。うろろろ行ったり来たりされません。イザヤの語るのが好きです。彼が仰ぎ見ると、主が高い御座に座しておられるのを見た。(イザヤ 6：1 参照)

行ったり来たりしておられない。「どうすればいいのか？ どうすればいいのか？」とは。いいえ、主は座しておられる。座しているときは落ち着いている。ダニエルは、これらの描写、獣の幻を見終わったばかりでした。そして、この第四の獣は実に言葉に表せないほど、底知れぬ邪悪さとおぞましさを持っていた。これまで見たこともないような恐ろしいもの。そして、ダニエルは最後まで見続け、ここが言わば「教訓」です。これが良い教訓です。時に、主が私たちを落ち着かせ、主が御座に座しておられるのを見る時迄、私たちはただ主に目を向け続ける必要がある。すぐにわかりますが、ダニエルはこのことに非常に動揺しています。これは彼をめちゃくちゃにするとと言えますよ。この幻は彼にとって非常にトラウマとなりました。で、これが『年を経た方』父なる神の描写です。

・・・その衣は雪のように白く、頭髮は混じりけのない羊の毛のよう。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、

ーダニエル 7：10ー

火の流れがこの方の前から出ていた。幾千もの者がこの方に仕え、幾万もの者がその前に立っていた。さばきが始まり、いくつかの文書が開かれた。

待つて。書？ 複数形？ そうです。一つだけだと思っていました。『いのちの書』いえ、『生ける者の書/Book of Living』と、(詩編 69：28 参照)『いのちの書/Book of Life』と、、(ピリピ 4：3、黙示録 3:5; 13:8; 17:8; 20:12, 15; 21：27 参照) 3つ目の書は忘れてしまいました。ど忘れしてます。だから、これらの書がすべて開かれた。待つて。これら何百万人もの人々って誰？ 私たちです。私たち。さらに良くなります。もし私が、この章で患難前携挙を見ようとしていると言ったらどうです？

「おいおい、牧師さん、あなたはすべてに患難前携挙を見出しますね。またそんなん言うて～。(直訳：バナナを見る)」

実はそうできます。思いつきますよ。時間くださいね。バナナから患難前携挙を出しますよ。まず皮を剥かないとね。それは患難前と呼びます。バナナを食べる前、バナナの皮むき前。とにかく、、それで、これはまだ未来の話です。ダニエルにこの全てが見せられます。11節も同じように始まります。"私は見ていた"私は、救い主が弟子たちに見張っているよう諭されたことを思い出します。見張り続けなさい。見ていなさい。城壁の見張り人のように。ずっと見張り続けなさい。それがダニエルのしたこと、「私は見続けた。」

ーダニエル 7：11ー

そのとき、あの角が大言壮語する声をしたので、私は見続けた。・・・

言い換えれば、この対比を見て下さい。私がダニエルなら、こうなります。こんな風にあちこち見ます。つまり、この大げさで、乱暴で、自惚れた、尊大な言葉が、この男、反キリストの口から出てくるのです。ダニエルは見続けていますが、聞いていて、「もう黙れ」って感じです。人々はその言葉に問題がありますね。ごめんなさい、許してください。許してくださいね。たぶん「あなたは黙っていた方がいい。」この言い方の方がいいですか？ ずっと牧師的ですかね？ でもダニエルは見続けました。なぜか？

・・・すると、その獣は殺され、からだは滅ぼされて、燃える火に投げ込まれた。

ーダニエル 7：12ー

残りの獣は主権を奪われたが、定まった時期と季節まで、そのいのちは延ばされた。

ーダニエル 7：13ー

私がまた、夜の幻を見ていると、・・・(まだ見続けています)・・・見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。・・・

それは誰か？ 子なる神、イエスです。

・・・その方は『年を経た方』(父なる神)のもとに進み、その前に導かれた。

私も見るようになります。よくなりました。

ーダニエル 7：14ー

この方に、・・・

私はこれを聞く必要があります。皆さんはこれを聞く必要があります。そして間違いなく、ダニエルはこれを聞く必要があった。

・・・この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。

そして15節、ちょっと難しいです。ダニエルは、大変正直に言うからです。

ーダニエル 7：15ー

私ダニエルの心は私のうちで悩み、頭に浮かんだ幻は私をおびえさせた。

彼はこれに大いに動揺しました。興味深いことに原文では、、この言葉遣いに留意ください。私たちはこんな言い方はしません。私、ダニエルの体の中で霊が悲しんだ。(新ジェームズ王訳直訳)

これは原文では彼の体の霊がさやの剣であったように、さやの観念を伴います。彼の体の中の霊、彼の体のさやの内、霊は悲嘆に暮れ、悩み、動揺した。これが理由です。彼はまだ、大言壮語する小さな角のことが忘れられないのです。それでどうするのか？ 16節、ダニエルは動揺しています。

ーダニエル 7：16ー

私は、傍らに立っていた者たちの一人に近づき、このことすべてについて、彼に願って確かめようとした。すると彼は私に答えて、そのことの意味を告げてくれた。

ーダニエル 7：17ー

『これら四頭の大きな獣は、地から起こる四人の王である。しかし、

皆さん、ここに注目してほしいのです。

ーダニエル 7：18ー

しかし、いと高き方の聖徒たちが国を受け継ぎ、その国を永遠に、世々限りなく保つ。』

(JD 嬉しそう。) OK、OK。これだけさせてください。もう1回だけ読んでもいいですか？ 良かった。

『いと高き方の聖徒たちが国を受け継ぎ、その国を永遠に、世々限りなく保つ。』世々限りなく。永遠の長さを知っていますか？ 永遠です。いつまでも。世々限りなく。ずっと。いつまでも。19節、ダニエルはなお、質問があります。彼はまだ動揺し、混乱しているので、まだ答えを求めています。皆さんに、19節で

注目してほしいのが、

ーダニエル 7：19ー

それから私は、第四の獣について確かめたいと思った。・・・

「最初の三つの獣については分かりました。私は心配していないし、動揺もしないし、そのこと（最初の三つの獣）で悲しむこともない。私は分かりました。今私は、第二の獣の時代を生きています。ですから第一の獣はすでに起こり、第二の獣は、今起こっているところで、第三の獣は、この先で起こる。でもこの第四の獣、もう少しこれについて教えてもらえませんか？これは良いこととは思えないから。」

・・・それは、ほかのすべての獣と異なっていて、非常に恐ろしく、（詳細↓があります）牙は鉄、爪は青銅で、食らってはかみ砕いて、残りを足で踏みつけていた。

ーダニエル 7：20ー

その頭には十本の角があり、もう一本の角が出て来て、そのために三本の角が抜け落ちた。その角には目があり、大言壮語する口があった。その角はほかの角よりも大きく見えた。

ダニエルは、この男の口から出た大言壮語と冒流的な言葉について、3回以上書いているのにお気づきでしょうか？ つまり、傲慢さとプライドの高さを表すとしたら、それです。ダニエルが苦闘しているのが伝わってくるようです。彼はアラム語を当然理解しているはずなのに、この幻で見た、大言壮語する小さな角を表す適切な言葉を見つけるため、奮闘しています。言い換えれば、「分かりました。三つの獣は、レ点、レ点、レ点。第四の獣は、レ点、、、10本の角？ レ点。小さな角？

「そう慌てず、私はこの男についてもっと知りたい。」ええ、興味深いですね。「あなたはそれら全てを啓示され、そして、あなたが見せられたものすべての解釈が示され、で、あなたの焦点はその口が大言壮語する小さな角にあるの？」

はい。そして、私たちのために、彼の口が尊大な、分かりやすく言えば冒流的な言葉を語ったことが、3回以上記されています。21節もまた同じように始まります。

ーダニエル 7：21ー

私が見ていると、・・・

皆さん、ダニエルが見続けている印象を受けますか？

・・・その角は聖徒たちに戦いを挑み、（聖徒であって↑教会ではありません。）彼らに打ち勝った。

止めます。患難前携挙があります。なぜそうなのか？ マタイの福音書13章だと思いますが、イエスは、弟子たちを連れて、まさに悪魔的な場所に行かれました。一緒にイスラエルに行った方、その場所へ行きましたね。ピリポ・カイサリア。人々が、想像を絶するパン神へ崇拜した場所。人々は、このパン神を恐れました。それが英語のパニックの語源です。それがパン神で、その場所は地獄の門と呼ばれていました。こんな巨大な岩に大きな口を開けています。で、それはよみの門、または地獄（の門）と呼ばれていました。ここで、パン神が崇拜されていました。ピリポ・カイサリアという場所でした。イエスは弟子たちを連れて、この場所に行かれた。この場所でイエスは尋ねます。

「人々は人の子をだれだと言っていますか」（マタイ 16：13）

それでペテロは、、、私はペテロが大好きです。シモン・ペテロが答えた。

「あなたは生ける神の子キリストです。」（マタイ 16：16）

イエスはペテロの方を振り向いて仰いました。「ペテロ、正しい答えです。よくできました。」ペテロはそれが頭から離れず、彼は本当に、その、なんというか、感じるのが、ほとんど想像です。話にはありませんけど、ペテロは他の弟子たちを見て、こう言うはず。「君たち、主が仰ったことを聞いたか？」ご存知有名な記



述、実話です。本当に起こりました。弟子たちは、ガリラヤ湖の真ん中で嵐の中にいたときに、イエスが水の上を歩いておられるのを見ましたが、イエスだと分からず、震え上がりました。(マタイ 14:25~26)

彼らがイエスだと気づいたとき、舟の中で、弟子たちの中でただ一人、「私に来よう命じて下さい。」と言ったのは誰でした？「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください。」(マタイ 14:28)

で、イエスは何と言われるのか？「さあ、来なさい。」それでペテロは舟から出て、水の上を歩いています。(マタイ 14:29)

私たちは彼に厳しすぎると思います。「そう、ペテロは主から目を離したんだ！」ええでもペテロは、舟から出たんですよ！！「ええでも、彼は主から目を離し、沈み始めた。彼は嵐に目を向け出したからね〜」止めて下さい。ペテロは舟から出て、水の上を歩いたんですよ！！ 何歩歩いたか知りませんが、他の弟子たちはそれをしなかった。聞いてください。この胸の内を吐き出したいのです。これは私にとって大きな問題なんです。私は本当に苦労しています。もちろん、私はペテロだから。いえ、そうじゃなく、私は舟の後ろにいて言います。「ペテロ、何をしているんだ？」ペテロは、、、目をそらし、そう、彼が目を向けたのは、、、ええ、嵐がまだ猛威をふるっていたから。彼は水の上を歩いていて、主から目を離し、嵐に目を向ける。しかし、私が思うに、彼は弟子たちを振り返ったのでは？ そして言う。「見て〜僕は水の上を歩いているんだぞ。」もちろん、そのとき彼は沈みました。沈む前には驕りが来るからです。(箴言 16:18 参照)

脱線しているのは分かっています。私はここで、深い深い指摘をします。それが何だったか思い出さないといいませんが、ダニエルはこの小さな角についてどうしても知りたがっています。ダニエルは語ります。

「その同じ角は聖徒たちに戦いを挑み、」それは教会になり得ません。「マタイの福音書16章」の記述と矛盾するからです。イエスが弟子たちを連れてカイサリア・ピリポに行かれ、ペテロが「あなたは生ける神の子キリストです」と言った後、こう仰いました。

「わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。」

ペテロはペトラ、リトルロック、アーカンソー州の(リトルロック)ではなく、リトルストーン。

「では、ペトラ、あなたの告白という岩の上に、わたしは教会を建てようと思います。」

それからイエスはこう仰います。「よみの門もそれに打ち勝つことはできません。」(マタイ 16:18)

誰が？ その教会です。じゃあ、ちょっと待って下さい。それは、反キリストが聖徒たちに打ち勝つというダニエル書7章と矛盾します。それは教会ではありません。教会はどこ？ 天国です。この聖徒たちって誰？ 彼らは地上に取り残された者たちで、患難時代の聖徒と愛称されます。患難時代前教会携挙が21節のど真ん中にあります。これは聖徒です。地獄の門、反キリストが教会に打ち勝つことはありません。でもダニエル曰く、反キリストは聖徒に打ち勝つ。この聖徒は教会とは違います。彼らは教会ではありません。「マタイの福音書16章」を完了しないといいけません。なぜなら、ペテロがこう言った後、「さあ、私は鍵を与えられ、主は私の告白という岩の上に教会を建てよう」とされている。私は鍵を与えられ、よみの門もそれに打ち勝てない。」そして主はこう仰います。「もうひとつ言うておくことがあります。わたしは十字架に行かなければなりません。」(マタイ 16:21 参照)

するとペテロは基本的に、「私の屍を超えて行って下さい。(そんなことさせません)」それに対してイエスは、ペテロに向かって仰います。「下がれ、サタン。」(マタイ 16:23)

つまり、ほんの短いやりとりの中で、「ペテロ、あなたは幸いです。よくできました。肉と血があなたにこれを明らかにしたのではなく、神がこれを明らかにされました。正しい答えです。」から、「下がれ、サタン。」と仰る。イエスはペテロをサタンと呼んでおられるのではなく、ペテロは、基本的にサタンがペテロに言わせたかったことを発していました。サタンはイエスを十字架へ行かせたくなかったから。サタンは、イエス

が十字架に行けば、人類の罪のために死に、贖うことを知っているからです。イエスが十字架に行かれれば、サタンは私たちよりずっと聖書を知っているのです、イエスが死を打ち負かし、よみがえるのを知っているからです。

では先に進みます。そういうの止めてよね。先に進まないといけないんだからね？ では22節、

ーダニエル 7：22ー

しかしそれは『年を経た方』が来られるまでのことであり、いと高き方の聖徒たち（教会ではありません）のためにさばきが行われ、聖徒たちが国を受け継ぐ時期が来た。

教会は既に天にいます。

ーダニエル 7：23ー

彼はこう言った。『第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。』

ーダニエル 7：24ー

十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らの後に、もう一人の王が立つ。彼（反キリスト）は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。（十人のうちの三人です。）

ここで再度です。どれほど繰り返すのか？ 25節、

ーダニエル 7：25ー

いと高き方に逆らうことばを吐き、いと高き方の聖徒たちを悩ます。・・・

教会ではなく、7年の患難時代の聖徒たちです。反キリストは患難時代の聖徒たちを迫害し、食うために探します。私たちに語られるのは、

・・・彼は時と法則を変えようとする。聖徒たちは、一時と二時と半時の間、彼の手に委ねられる。

ヘブル語とアラム語の解釈について話したのを覚えていますか？ それは三時と半時で、7年の患難時代の最後の3年半です。聖徒たちは、彼の手に委ねられます。

ーダニエル 7：26ー

しかし、さばきが始まり、彼の主権は奪われて、彼は完全に絶やされ、滅ぼされる。

ーダニエル 7：27ー

国と、主権と、天下の国々の権威は、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その御国は永遠の国。すべての主権は彼らに仕え、服従する。』

そして、最後の節です。

ーダニエル 7：28ー

ここでこの話は終わる。・・・

終わり。おしまい。追伸。

・・・私ダニエルは、いろいろと思い巡らして動揺し、顔色が変わった。しかし、私はこのことを心にとどめた。」

わお。私と一緒によく考えていただきたいのです。ダニエル、この神の人は、神から力強く用いられました。神は比類なく配置されました。思い出してください。ダニエルがバビロン捕囚として連れてこられたのは、20代半ばでした。今、ダニエルは80代で人生の終盤です。エルサレムには決して戻りません。バビ

ロン（当時のペルシャ、ペルシャ帝国）で死にます。そんな感じではありませんが、ダニエルは無理やり引き留められたとある人々は信じ、神がダニエルの残留を望まれたのを彼は知っていたと信じる人もいます。神は何十年もの間、多くの人々の人生にダニエルを用いてこられたからです。神がダニエルをそこに留め置かれました。神が彼をそこで必要とされたからです。神が彼をそこで用いられたからです。エルサレムに戻って仲間と一緒にいるよりも、神の御国にとって価値があったのです。それについて考えてみてください。それだけでも、神はあなたをその仕事、その近隣に比類なく配置されたのか？ 神があなたをそこに留めておられます。神はご存知です。あなたをここに置かれたのには理由があります。神はあなたを移転されません。神はあなたが今の場所に留まることを望んでおられます。神はあなたを用いようとしておられるからです。神はあなたを用い終わっておられません。神はまだあなたのためにご計画があられ、御働きのためにあなたを通し用いようとしておられます。あなたにとっては誰かわかりませんが、神があなたを用い、神のみもとに導かれる誰かがそこにいます。ですから、あなたは戦略的にその場所に置かれていなければなりません。変わりたい、引っ越したい、移動したいと急ぎ過ぎないでください。随分前、本土で私が知る人たちのことですが、彼らは引っ越しても、結局、移住しなければよかったと思うだけ。彼らは、新しい場所に移ったという意味での代償を全く計算していなかったからです。彼らは、それが人生で犯した最大の過ちの1つだと気付きます。神はそれを祝福されるでしょう。神は大変慈悲深くあられます。神はすべてのことを働かせて益としてくださいます。（ローマ 8：28 参照）

私たちはこのような過ちを犯します。神は憐れみ深くこう仰います。「わかりました。わたしが何とか解決します。わたしの仕事を少し大変にしてくれてありがとう。でも、何とかします。わたしはあなたを動したくなかったけど、あなたはここにいます。再編成せねばなりません。わたし達は解決し、良い結果となります。」しかし、あまり急がないでください。それは仕事かもしれないし、今の地位かもしれないし、住んでいる場所かもしれないからです。あまり急がないでください。エステルのように、神がこのような時のためにあなたをそこに置いておられないと、どうしてわかりますか？ 神があなたを比類なく置かれた場所です。

モルデカイはこう言いました。「神がこのような時のために、あなたをこのような立場に置かれたのではないと、どうしてわかるのか？」（エステル 4：14 参照）

モルデカイがエステルに語った言葉は、非常に身につまされます。このような時に、あなたが置かれたこの比類ない立場で、神に召されたことをしなければ、神は他の誰かを見つけられます。私はそれを聞きたくありません。こんな感じです。「待ってください。待ってください。いえ、いえ、私はあなたの者です。」

「興味がないなら、他の人を探します。」「いえ、いえ。私は大丈夫です。」「違います。あなたは、、、あなたは大丈夫ではありません。あなたはわたしとこのことで戦っています。ですから、聞きなさい。あなたは協力せず、やめたいのなら、大丈夫です。他の人を探します。」「いいえ、私は協力します。私はあなたの者です。これから訪れる祝福を奪われたくありません。」神がエステルを用いられたのをご存知ですか？ 事実上、今晚話しているクセルクセス王率いるペルシャ帝国の手からイスラエルを救い出すために。「エステル記」の学びを覚えていますか？ 神の御名が一度も出てこない唯一の書物です。しかし、その驚くべき書物のあらゆる箇所、神の御手を見つけることができます。宴会を覚えていますか？ 話せたら、、、話しません。話せたら話したいです。クセルクセス王が眠れなかった夜を覚えていますか？ これは薬、それ以前です。で、何をするのか？「巻物を持ってきて、死ぬほど退屈にさせなさい。眠ってしまうだろう。」クセルクセス王は、大量の巻物を取りにしもべたちを図書館に行かせました。これを読めばわかります。理事会の議事録のようです。これらは会議召集の記録、、、みたいな。(いびき)王はおしまい。眠りに落ちます。それが王が考えたこと。神が彼らの手を導かれ、彼らは干し草の山の中から針を探すように、モルデカイという人物が暗殺計画から王の命を救ったという奇妙な記述がある巻物を選びました。(エステル 6：2 参照)で、彼らは戻り、王は、「よし。戻ったな。まだ眠れぬ。読み始めよ。うまくいけば、眠りに落ちるだろう。」

で、彼らは巻物を読み始めます。どうやら、モルデカイの部分から始めたに違いありません。今は眠るどころか、王は目を大きく見開きます。王は、「待て。何だって？ 何か知っているか？ 私はそれを覚えている。その陰謀を覚えている。待て。その人物は誰だ？ それを止め、私の命を助けたのは？」「ここに記録されています。：モルデカイです。」王は、「わお。この人物のために何かしたか？」見せなさい。」スクロール、スクロール、スクロール。(巻物を解く。) 私たちにとっては、スワイプ、スワイプ、スワイプ。カチ、カチ、カチ。「いや、私たちが何かしたようには見えない。何かせねばならない。この人物は私の命を救っ

たのだ。」結びにもう一つ、深遠な指摘をしましょう。だからもう少し辛抱してね。で、朝が来ます。彼は眠らなかったと思います。その間にハマンが何をしていたか知ってます？彼は柱を磨いてました。吊るすためのものでなく、でも、これらの鋭い、確か.....私たちの測定値で何フィートの高さだったか忘れちゃけど、彼らはこれらの鋭利な柱に生きたまま人を突き刺し、人々は徐々に悲惨な死を遂げます。そして、ハマンはモルデカイを突き刺すための柱を作っていたのです。というのは、ハマンが街を歩くたびに、モルデカイは頭を下げようとしなかったから。それは通用しなかった。そこでハマンは、獅子の巣窟のときと同じように、王に勅令を出させました。それは先週でしたっけ？ おお、いいね。ほら、私覚えてました。牧師が1週間前に教えたことを覚えているのはとてもいいことですよ。で、彼らはユダヤ人を皆殺しにするために、モルデカイとユダヤ人を畏にはめ、取り消しできない勅令が出され、そして、結果として、このハマンの正体は暴露されたのです。そして、ダニエルを獅子の巣窟に放り込んだ連中のように、彼らはハマンを連れて行き、モルデカイのために自分が作った柱に彼を突き刺しました。私はただ、神の御言葉が本当に大好きです。どうかな、そういう記述を本気で楽しむのは悪いことです？ これらは、本当にそのそばにいてみたいことです。ぜひ見たかったですね。暗い話だけど、それを見たかったです。何が言いたかった？ ダニエルはすべてを見ました。彼はすべてを見たんです。彼がひどく悩むのも無理はありません。顔色が変わったのも無理ありません。しかし、重要なのはここからです。これが要点で、それから締めくくります。ダニエルがこのすべてを見たのは、神は彼がこれらすべてを見ることをお望みだったから。なぜなら、最後には、神が永遠にその御座にお座りになれるから。いつまでも、永遠に。それが結末です。だから、ただ目を離さずに待っていてください。本当にひどくなるからです。この小さな角、反キリストは、世界がかつて見たことのないような、そしてこれからも見ることはないような人物です。マタイの福音書24章で、イエスは**大患難**について、こう仰せられました。

**『その時には、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。』(マタイ 24:21)**

だから、神は当時のダニエルに、今の私たちと同じように、それは結末ではないことを悟らせる必要がありました。そうは終わらない。あなたは今、本当に苦しい試練の中にもいるかもしれません。待ち望んでください。神が最終的な決定をお下しになるからです。あなたにとって良い結末になります。

「ああ、でも今、僕にとって本当に悪い状況だよ。」分かっています。しかし、それはあなたにとって本当に良い結末になるのです。永遠に、世々限りなく。アーメン。

カポノ、上がってください。ご起立ください。(拍手)

私は神の御言葉が大好きです。主よ、感謝します。ああ、私たちは、まだこの章をかすりもしていません。でも、私たちの集中力ではおそらくそれで十分だと思います。主よ、ここからはあなたが聖霊の力でなさってください。それはひとつの過程なのです。私たちは今夜、家に帰り、寝て、朝起きます。私たちの多くは仕事に行き、そのまま週末を迎えます。でも主よ、このまま私たちを放っておかないでください。私たちがこれを逃がしてしまうことを。主よ、あなたはすでに未来を完璧に予定通りに進めておられます。あなたは未来がどうなるかまで教えてくださいました。なぜなら、未来を握っているのはあなただからです。主よ、それは私たちに希望を与えるはずです。そして、もし今夜落胆している人がいたら、励まされるよう祈ります。何世代も前、ダニエルに与えられたこの預言を知ること。その頃、彼は第二の獣(の時代)を生きていて、私たちは今、第四の獣、最後の王国を生きています。間違いなく、こんにち舞台裏で生き、教会が取り除かれた後にすぐさま姿を現そうと準備する反キリストと共に。私たちはそこにいます。あなたが、これが起こると私たちに仰せられたことが起きています。そして、その終わりは私たちのためです。主よ、ありがとうございます。この章をありがとうございます。ダニエルをありがとうございます。私たちの人生に適応すること、それを私たちの心への祝福としてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7